

高等学校・大学等の ボランティア・市民活動実態調査 報告書

平成20年3月



財団法人 かわさき市民活動センター

はじめに

近年の小・中・高等学校におけるボランティア・市民活動の状況は、「総合的な学習の時間」の実施に伴い、生徒のボランティア活動に対して理解度が高まり参加の機会が増えてきています。また、2002年7月に中央教育審議会から出された「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について」の答申では、学校における体験活動の充実のための取組や青少年の学校及び地域における奉仕活動・体験活動の促進のための取組等、学校内外における活動の促進と必要性が挙げられています。

財団法人かわさき市民活動センターは、ボランティア・市民活動の推進の拠点として、ボランティア意識の啓発及び開発を通じ、市民相互の連帯と協調の意識を高めるとともに、市民権と参加の原則に基づき、ボランティア・市民活動、青少年活動、その他の地域的諸活動への市民の参加を推進援助し、あわせて青少年を健全育成し、もって住みよい文化的な地域社会の確立に寄与することを目指しています。

当センターではこの度、生徒・学生のボランティア・市民活動を学校側がどのように推進しているかを把握するため、川崎市内の高等学校、専門学校、短期大学、大学の44校に調査票を送付し、回答をいただきました。今後、学校と当センターが協力していくことで、より一層ボランティア・市民活動が活性化されれば幸いです。

末尾ながら、この調査にご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

平成20年3月

財団法人 かわさき市民活動センター

高等学校・大学等のボランティア・市民活動実態調査

【目次】

．実態調査の目的と回収結果	1
．調査結果	
1． ボランティア・市民活動を推進している機関について	2
2． 生徒・学生のボランティア・市民活動について	4
3． ボランティア・市民活動が与える影響について	9
4． 生徒・学生に対する支援について	12
5． 現在の支援を踏まえた今後の取り組みについて	16
．まとめ及び今後の取り組みについて	20
．資料	21

・実態調査の目的と回収結果

1. 調査名称

「高等学校・大学等のボランティア・市民活動実態調査」

2. 調査目的

川崎市内の高等学校、専門学校、短期大学および大学において、学校内外での生徒・学生の自発的なボランティア・市民活動を推進している実態を把握し、今後の協力体制の可能性について調べる。

3. 調査対象先と回収結果

川崎市内の高等学校、専門学校、短期大学および大学（全 44 校）

調査対象	有効回収・回答数	回収率
44 校	31 件	70.5%

4. 調査方法

郵送によるアンケート調査

5. 調査期間

平成 19 年 11 月 10 日から 11 月 30 日

6. 調査票の構成

本調査は、次の 5 項目を中心に構成している。

1. ボランティア・市民活動を推進している機関について
2. 生徒・学生のボランティア・市民活動について
3. ボランティア・市民活動が与える影響について
4. 生徒・学生に対する支援について
5. 現在の支援を踏まえた今後の取り組みについて

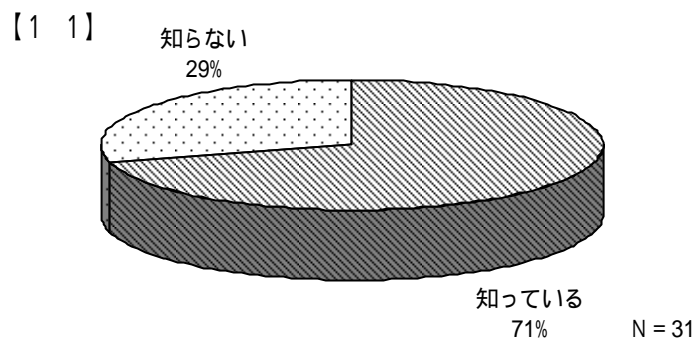
・調査結果

1. ボランティア・市民活動を推進している機関

かわさき市民活動センターを知っているかという問いに対して、71%が知っているという回答があった。しかし、実際に利用したことがあるのは13%で、その内容は「ボランティア情報の収集」や「講習会」というものだった。

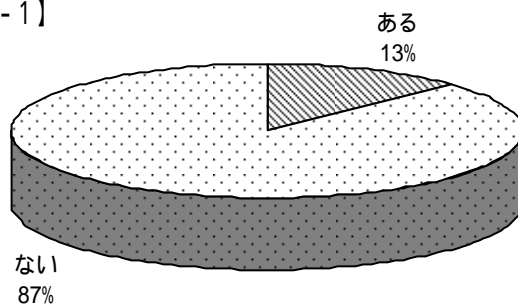
また、かわさき市民活動センター以外のボランティア・市民活動推進機関を知っているかの問いに対して、「川崎市社会福祉協議会」や「各区社会福祉協議会」という回答が多かった。

1 - 1 かわさき市民活動センターを知っているか



1 - 1 - 1 利用の有無とその利用内容

【1-1-1】

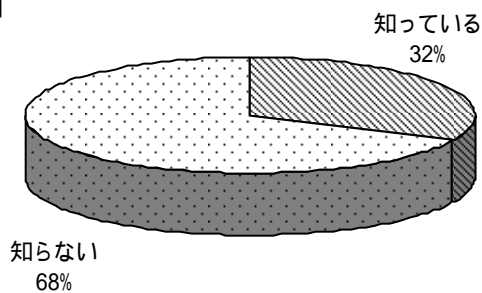


N = 31

利用内容
・ユニバーサルファッション作品展・講習会
・ボランティア情報の収集
・社会人講師の紹介派遣
・学校でボランティア学習をするため

1 - 2 かわさき市民活動センター以外の川崎市内の推進機関を知っているか

【1-2】



N = 31

機関名（順不同）
・社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会
・社会福祉法人 川崎市川崎区社会福祉協議会 川崎区ボランティアセンター
・社会福祉法人 川崎市中原区社会福祉協議会
・社会福祉法人 川崎市多摩区社会福祉協議会 多摩区ボランティアセンター
・社会福祉法人 川崎市麻生区社会福祉協議会
・社会福祉法人 青丘社

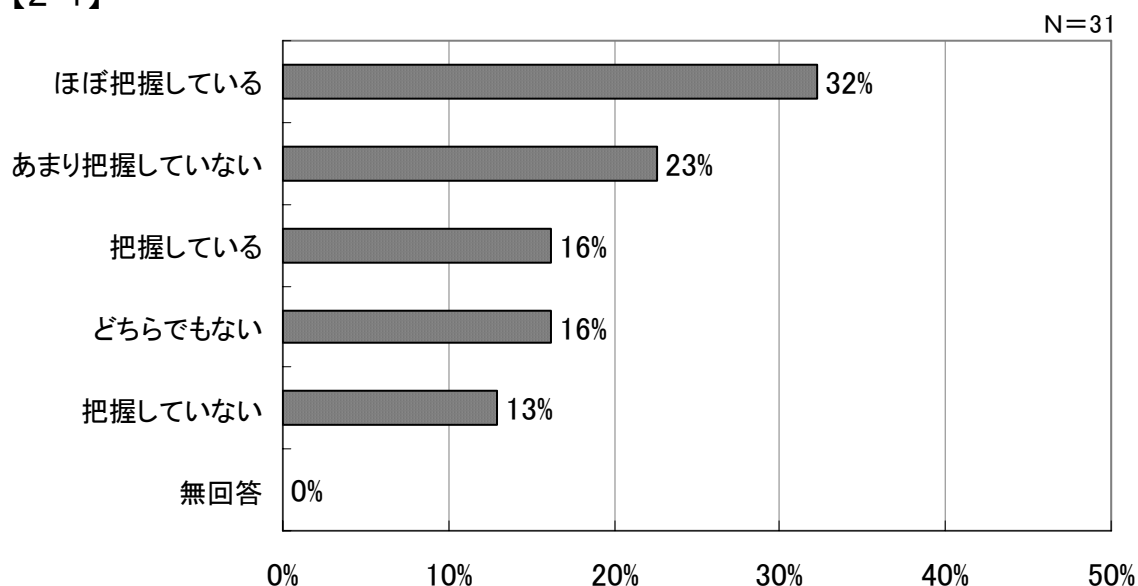
2. 生徒・学生のボランティア・市民活動の実態

生徒・学生のボランティア・市民活動に対して、ほぼ把握しているが32%であった。また、授業や特別活動等において生徒・学生がボランティア・市民活動を行う機会として87%が「ある」と回答している。活動分野としては、「学術・文化・芸術・スポーツ」が56%と最も多く、次に「保健・医療・福祉」が52%、「環境保全」が37%となっている。

実際に活動している内容については、2-2-1で活動事例としてあげる。

2-1 ボランティア活動をしている生徒・学生の把握

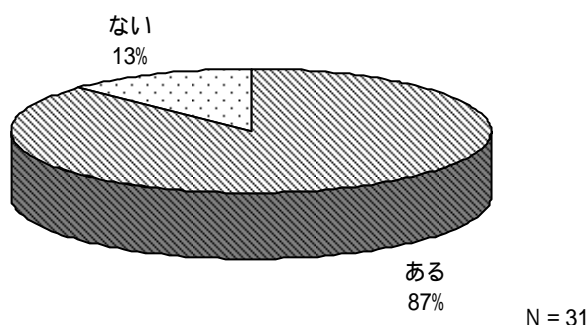
【2-1】



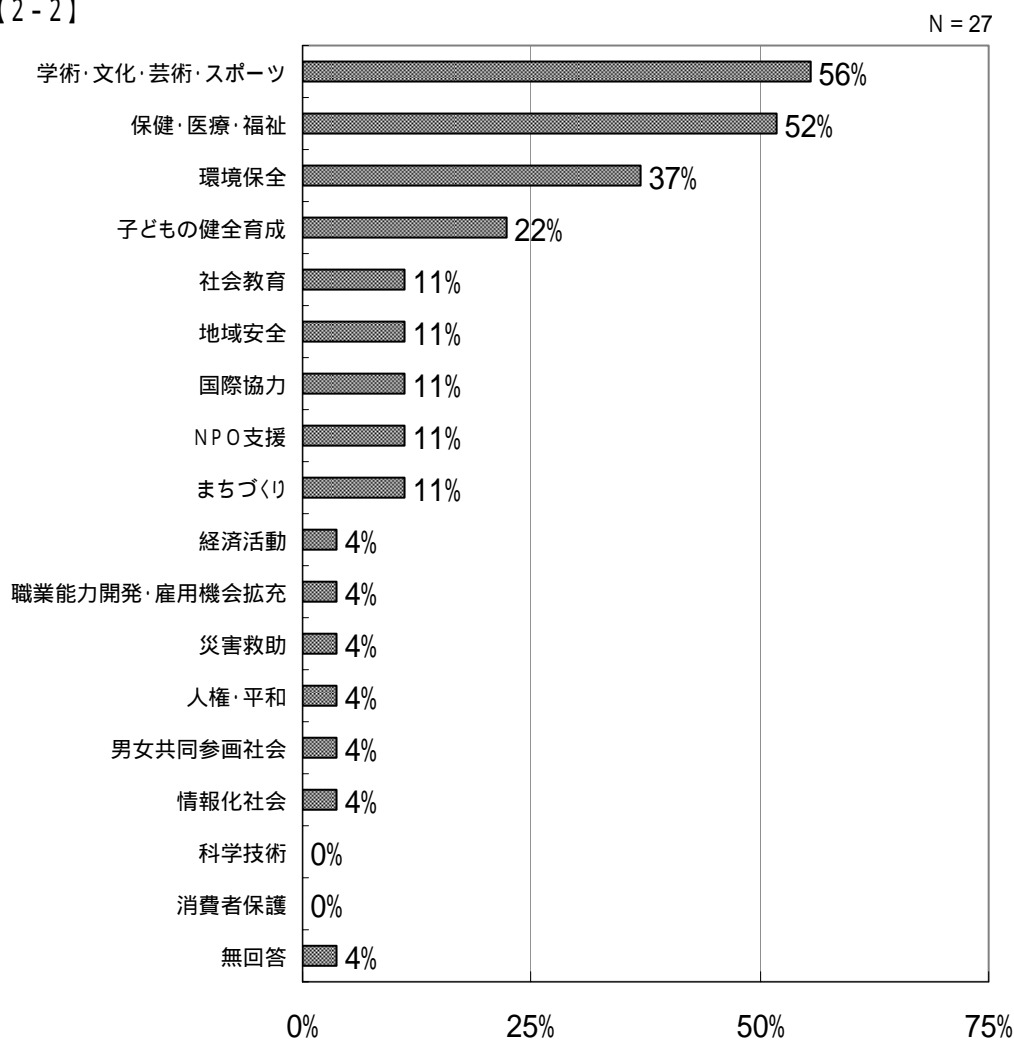
	ほぼ把握している	あまり把握していない	把握している	どちらでもない	把握している	無回答
回答数	10	7	5	5	4	0

2 - 2 授業、特別活動等における生徒・学生のボランティア活動の機会とその活動分野

【2-2】



【2-2】



	学術・文化・芸術・スポーツ	保健・医療・福祉	環境保全	子どもの健全育成	社会教育	地域安全
回答数	15	14	10	6	3	3
	国際協力	NPO支援	まちづくり	経済活動	職業能力開発・雇用機会拡充	災害救助
回答数	3	3	3	1	1	1
	人権・平和	男女共同参画社会	情報化社会	科学技術	消費者保護	無回答
回答数	1	1	1	0	0	1

2 - 2 - 1 活動事例

各当校の活動事例は次のとおりである。なお、学校名を非公開または公開・非公開を選択されていない学校については、学校種別ごととする。

川崎市立川崎高等学校
・高齢者施設(特別養護老人ホーム・老人保健施設等)での介護ボランティアとして、食事、排泄、入浴、衣服の着脱等の日常生活援助、お祭り等での売り子や介助ボランティア、外出時の付き添いボランティア、手話ソング、楽器演奏、歌を歌ったりしている。
・特別支援学校(養護学校)でのプールボランティアとして、児童生徒とプールに入り一緒に遊ぶ、更衣・トイレの介助、プールのゴミ捨て、清掃等をしている。

神奈川県立菅高等学校
・部活動の生徒が、放課後等を使い、ビブス(1)を着用し、学校周辺の安全確保のため巡回している。
・各学年がLHR等の時間を使い、学校周辺の清掃、落葉拾い等を実施している。
1:競技者が付けるゼッケン。また、チームの区別をつけるためにユニホーム等の上に着るベスト状のもの。

大西学園高等学校
・社会福祉法人神奈川県共同募金会川崎市中原区支会主管の「赤い羽根共同募金」において、校内募金及び、10月1日より数日間、武蔵小杉駅・溝の口駅・川崎駅周辺にて街頭募金活動に協力。
・総合的な学習の一環として、武蔵小杉駅構内及び新丸子駅周辺にて清掃活動を実施。
・川崎市中原区役所の「市民自治創造・かわさきフォーラム」、「なかはら市民活動のつどい」および「社会を明るくする運動」において、ブラスバンド部が演奏。

洗足学園高等学校
・老人ホームで音楽演奏(音楽科が実施)。
・老人ホームでのお手伝い。
・通学路の清掃。

昭和音楽大学 / 短期大学部

- ・学校や福祉施設における演奏活動。

高等学校（非公開）

- ・赤い羽根共同募金等の募金活動。
- ・中学生を招待し、部活動のお手伝いや小・中学校（他施設）への演奏会に出演。
- ・環境委員会が地域の自治会と協力しあって、学校の周囲に花を植えたプランターを設置。
- ・地域貢献活動として、通学路および学校周辺の清掃活動を行っている。
1年生：10月、2年生：9月、3年生：11月
- ・「おそうじ大作戦」で、学校近辺を年に5回程ボランティア清掃をしている。
- ・地域学童との交流。
- ・学校・通学路の清掃。ガムのこびりつきをはがす等。
- ・クラブ「人形劇団ペロッコ」が、保育園、学童クラブ、特養老人ホーム、障がい者の作業所等を訪問し、人形劇の上演と交流活動を行っている。
- ・里山においての下草刈りや、合同ボランティアネットワーク主催の海浜、河川の清掃活動等、環境保全活動に参加。今年は下草刈り・山林ボランティアに約70名、清掃に10名程が参加した。
- ・毎年、地域貢献デーを設定し、生徒全員で地域の清掃等を行っている。
- ・部活動の中に「ボランティアサークル部」があり、日常的に様々なボランティア活動（幼児教育センターや川崎区交流フェスティバルの手伝い等）を行っている。
- ・横浜市の舞岡公園での環境保全活動。
- ・楽大師プロジェクト地域活性化運動への参加。
- ・吹奏楽部による各種福祉施設でのコンサート。
- ・平日の朝、部活動に所属している生徒が、学校周辺の清掃活動を行っている。
- ・部活動に所属している生徒が、近隣の福祉施設で合唱を披露し、入所者の方々と交流をしている。
- ・年2回、学級ごとに地域清掃を実施。
- ・保育園 老人ホームでプラスバンドの演奏。
- ・地域特別支援学校との交流。
- ・地域幼児・児童施設との交流。
- ・学校の前の二ヶ領用水の清掃。
- ・夏休みに、近隣の保育園での保育ボランティアを紹介し、今年は稲城市の保育園2ヶ所で計30名程、1人原則2日という形で行った。

専門学校（非公開）

- ・毎年9月4日前後の火曜日、川崎東口アゼリアにおいて、授業外活動としてチャリティーカットおよび募金活動の実施。
- ・11月に中原会館において、NPO法人の主催する川崎歴史着物文化のチャリティーに学生が参加、協力した。
- ・多摩ふれあいまつりの運営補助。
- ・プロテクトチャイルド（ボランティア・イン・タイ）等の国際協力。
- ・KAWASAKI しんゆり映画祭が実施している、ジュニア映画製作ワークショップのスタッフのサポートを行っている。
- ・生徒や障がいを持つ一般の人、地域のシニア等が参加するユニバーサルファッションショーや作品展示、相談会を毎年多摩市民館で開催している。
- ・川崎市立多摩病院の敬老の日のイベントに協力。ユニバーサルファッションと便利な小物作りの実施が、患者さんのリハビリに役立ち、医療従事者に対し、「患者のこころ」を理解するきっかけになり、学生は人への対応の仕方を学ぶ場になっている。
- ・社会福祉協議会の「介護生き生きフェア」にて、ユニバーサルファッションの展示・講習等「NPO海外支援団体」に物を大切にするリメイク講座協力。
- ・国立機構相模原病院にて、リウマチ患者を対象に「体にやさしい衣服の研究・提案」

短期大学（非公開）

- ・市内の病院小児科病棟での絵本の読み聞かせ等。
- ・市内の障がいを持つお子さんたちへのボランティア活動。
- ・演奏会の実施、演奏の出前。

大学（非公開）

- ・演奏会の実施、演奏の出前。
- ・今年度から人間福祉学科主催で麻生養護学校の生徒の方々と一緒に、サッカーを観戦する『川崎フロンターレ観戦ボランティア』を5月・10月の2回実施した。

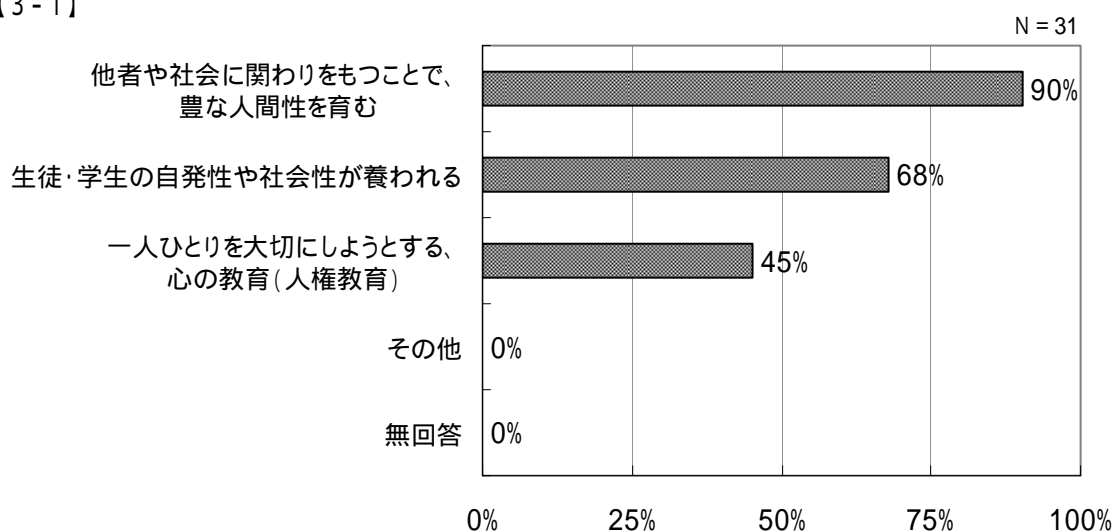
3 . ボランティア・市民活動が生徒・学生に与える影響

ボランティア・市民活動が生徒・学生に与える影響として、「他者や社会に関わりをもつことで、豊かな人間性を育む」ことができるという回答が44%と最も多い。また、影響からみた理由のなかで、ボランティア・市民活動を行うことで、「自分自身を見つめることができる」や「感謝の心や思いやりの心が育まれる」、「世代を超えた交流から、地域の一員としての自覚や責任がもてる」等の回答もあった。

生徒・学生のボランティア活動の必要性については、「どちらかという必要である」が42%と最も多く、「必要である」の39%が次に多い回答となっている。「どちらでもない」が19%あるが、「どちらかという必要ない」や「必要ない」という回答はなかった。

3 - 1 ボランティア活動が生徒・学生に与える影響

【3-1】



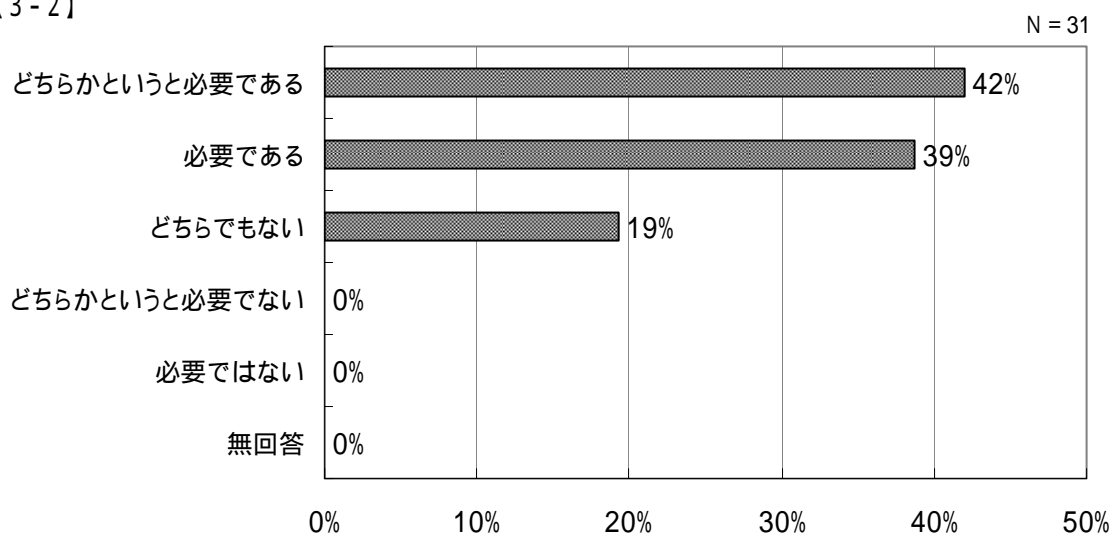
	他者や社会に関わりをもつことで、豊かな人間性を育む	生徒・学生の自発性や社会性が養われる	一人ひとりを大切にしようとする、心の教育(人権教育)	その他	無回答
回答数	28	21	14	0	0

3 - 1 - 1 ボランティア活動が生徒・学生に与える影響からみた理由

理由
<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアはその個人の自発性に任されている。この自発性はボランティアに積極的に参加し取り組むこと、また、社会性はボランティアで最も必要なチームワークで養われる。たくさんの方々と交流を深め、団結し、ボランティアを行っていくことで、チームの大切さを学び、その中で自発的に動くことで周りの人から信頼が厚くなることを学ぶ。そのような経験をしていくうちに学生は豊かな人間性を育み、人間的にも成長できるのだと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族、友人、教員等、それまで限られた範囲内でしか他者との交流を持たなかった学生がボランティア活動をすることによって、それまでとは違った世界に足を踏み入れることとなる。これは、学生個人にとって人間的成長の大事な転機となる可能性が大きいと考えられる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 初対面の方と接する上で、各人にどう対応、接したらよいか体験できる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 会話、応対等の相互のやりとりによって、感情の交流、心の交流、相互の理解がなされ、個人をこえて、他人を理解しあえるようになる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア活動への興味・関心・意欲のある生徒に対して、活動の場が提供(提示)され、自ら活動に参加し、さまざまな関わりを含め体験できる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 校外の組織・人間と接点を持つ事によって育まれると思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ お互い協力し合うことで、他人を思いやる心や自ら活動することの大切さを養い、大切にする(何事に対しても)心が生まれてくると思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の清掃活動を通じて自分たちの学校がある地域に貢献することにより、生徒自身が地域の一員としての自覚や責任が持てるようになる。また、地域住民の方とふれあうことにより、世代を超えた交流が図れるようになる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分自身を見つめることができる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本学では人権教育を推進しており、校内だけでなくボランティア活動に参加することによって一層、一人ひとりを大切にしようとする心が養われる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 街頭募金や清掃活動を通じて、地域住民の方々と接する機会を持つことにより、感謝の心や思いやりの心が生まれ、人間教育に大変役立つ。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の行動が、自分の利益のためでなく、自分たちの仲間・先輩や地域の人々の役に立つという自覚を持つことができる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が役立っているという自負心から学習や日々の活動に積極的になる。

3 - 2 生徒・学生のボランティア活動の必要性

【3-2】



	どちらかという必要である	必要である	どちらでもない	どちらかという必要でない	必要ではない	無回答
回答数	13	12	6	0	0	0

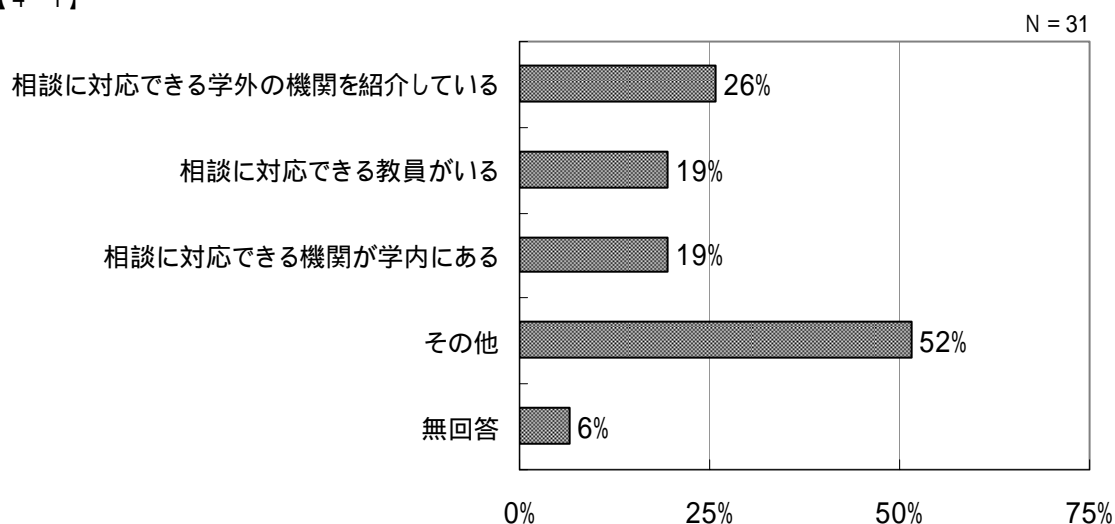
4 . 生徒・学生のボランティア・市民活動に対する支援

生徒・学生がボランティア活動に関心をもったときの対応として、「相談に対応できる学外機関を紹介している」が21%と多く、その他として「今までに相談に来たことがない」等といった現状がある。現在、実施していることとしては、「情報掲示板の設置」が22%、「資料コーナーの設置」が18%と情報発信による支援が多いことがわかった。

また、ボランティア・市民活動団体との関わりとしては、「ある」と回答したのは35%で約4割が授業等でボランティア・市民活動団体と関わりをもったことがあることがわかった。

4 - 1 生徒・学生がボランティア活動に関心をもって相談に来たときの対応

【4-1】



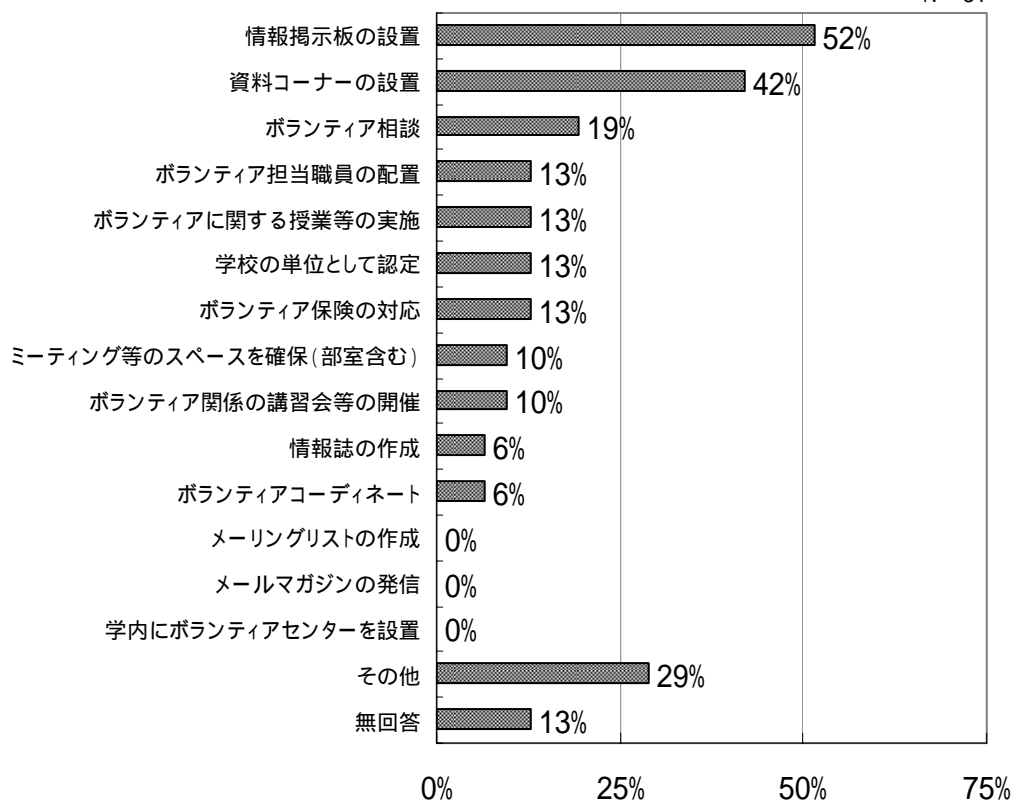
	相談に対応できる 学外の機関を紹介している	相談に対応できる 教員がいる	相談に対応できる 機関が学内にある	その他	無回答
回答数	8	6	6	16	2

その他
・教員、機関等が現在動いていない。
・必要に応じて関係する部署で対応している。
・本学では少人数担任制をしいており、そこで相談もできるし、短期大学であるため、学生が興味関心をもつ分野のボランティアについては、学生が教員を選択してその分野の教員に相談する。
・今までにそのような相談を受けていない。
・現在まで、そのような相談はない。
・常設の対応態勢はないが、その都度ケースバイケースでアドバイスを行う。
・相談に来ない。事実上対応してない。

4 - 2 現在の実施状況

【4-2】

N = 31



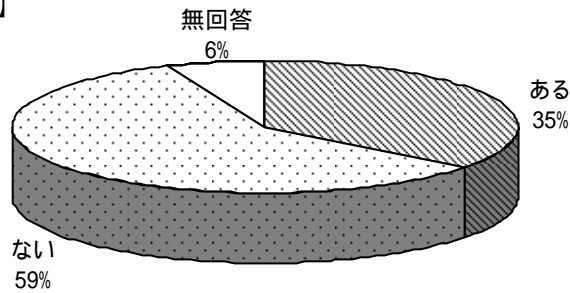
	情報掲示板の設置	資料コーナーの設置	ボランティア相談	ボランティア担当職員の配置
回答数	16	13	6	4
	ボランティアに関する授業等の実施	学校の単位として認定	ボランティア保険の対応	ミーティング等のスペースを確保(部室含む)
回答数	4	4	4	3
	ボランティア関係の講習会等の開催	情報誌の作成	ボランティアコーディネート	メーリングリストの作成
回答数	3	2	2	0
	メールマガジンの発信	学内にボランティアセンターを設置	その他	無回答
回答数	0	0	9	4

その他

- ・学内に学校教育ボランティア事業室を設置。
- ・特定非営利活動法人 K F V (川崎市外国人ボランティア) 等から送られた資料は学生に提示。
- ・事務局がそのつど対応している。
- ・会報
- ・ボランティア関係の案内は、そのつど各クラスに流している。
- ・校内各所への掲示
- ・ボランティア情報の掲示

4 - 3 ボランティア・市民活動団体との関わりとその内容

【4-3】



N = 31

ボランティア・市民活動団体との関わり（順不同）	【 】内は、団体名
【特定非営利活動法人 かながわユースボランティアリングファクトリー】	
・ボランティア入門講座の講師をお願いした。	
【特定非営利活動法人 K F V（川崎市外国人ボランティア）】	
・国際交流の授業をお願いした。	
【かわさきアトム工房】	
・生田緑地の青少年科学館で開催した、多摩区の小学生と保護者と学生ボランティアとの交流会「おもしろ実験で遊ぼう」の際、講師をお願いした。	
【H I M A G I N E（ひまじん）】	
・ボランティアに関するワークショップ開催(知的障害について)。	
【川崎東ライオンズクラブ】	
・留学生に日本のまつりを楽しんでもらうため、おみこしをかつがせた。	
【アマゾン森林保護植林協会】	
・授業の講師依頼。	
【ソフトエネルギープロジェクト】	
・授業の講師依頼。	
【舞岡公園管理運営委員会】	
・毎週、授業の講師依頼。	
【I M A Z I N】	
・知的障害の疑似体験ワークショップを授業で行った。	

ボランティア・市民活動団体以外との関わり（順不同）		【 】内は、団体名
【財団法人 かわさき市民活動センター】	・ 社会人講師の依頼。	
	・ 授業の講師となる団体の紹介。	
【社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会】	・ 社会人講師の依頼。	
	・ 介護いきいきフェア・作品展示協力、たまふれあいまつり。	
【社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会】	・ 社会人講師の依頼。	
【神奈川県立麻生養護学校】	・ ボランティアに関する講師依頼。	
【国立機構相模原病院】	・ リウマチ講習会	
【川崎市立多摩病院】	・ 敬老の日のイベント	

5 . 現在の支援を踏まえた今後の取り組み

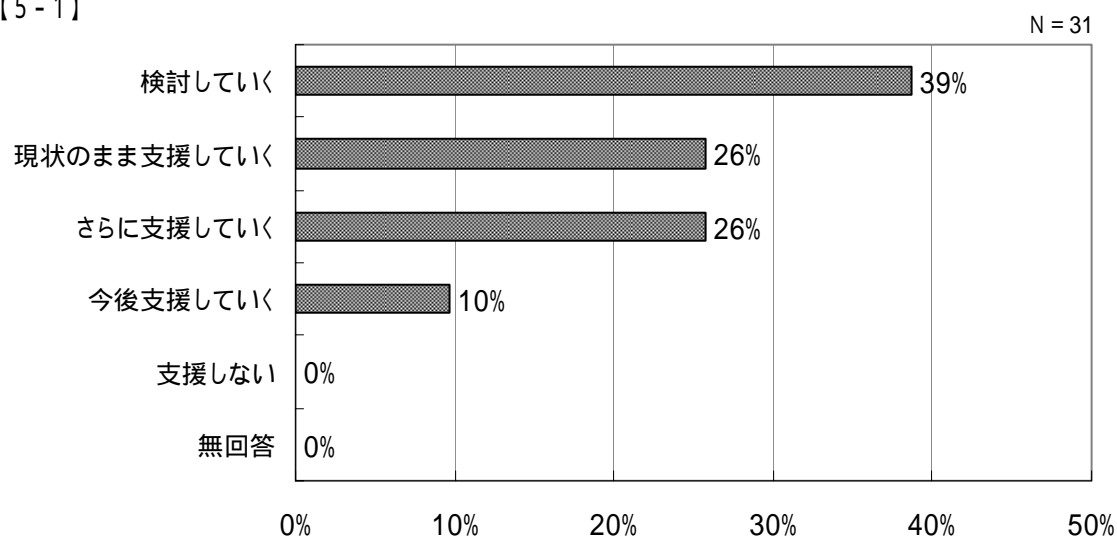
生徒・学生のボランティア活動に対する今後の支援として、「検討していく」という回答が39%と最も多く、「支援しない」という回答はなかった。全体的に、生徒・学生のボランティア・市民活動に対して支援していく傾向にあることがわかる。そして、今後の支援案として、「生徒の関心への把握、関心を持つ生徒への声かけ」や「生徒が行ったボランティアを集約し、単位化していく」、「学生からの問合せには、相談に乗り、外部機関と連絡が取れるよう仲介役をする」等といった考えがあることがわかった。

また、支援していく課題としては、「生徒・学生の関心」が36%と生徒・学生のボランティア・市民活動への関心が低いという回答が多く、次に「ボランティア情報の収集」が17%となっている。課題解決のために必要なこととしては「情報収集・提供」が29%と最も多く、課題として回答が多かった「生徒・学生の関心」を高めるための「生徒向けの講座」は13%であった。

5 - 1において、その他として「ボランティアは本人の自覚による行動が尊いのであり、学校教育の一環として強制したり、評価するものではない」という意見もあった。

5 - 1 今後の生徒・学生のボランティア・市民活動に対する支援

【5-1】



	検討していく	現状のまま支援していく	さらに支援していく	今後支援していく	支援しない	無回答
回答数	12	8	8	3	0	0

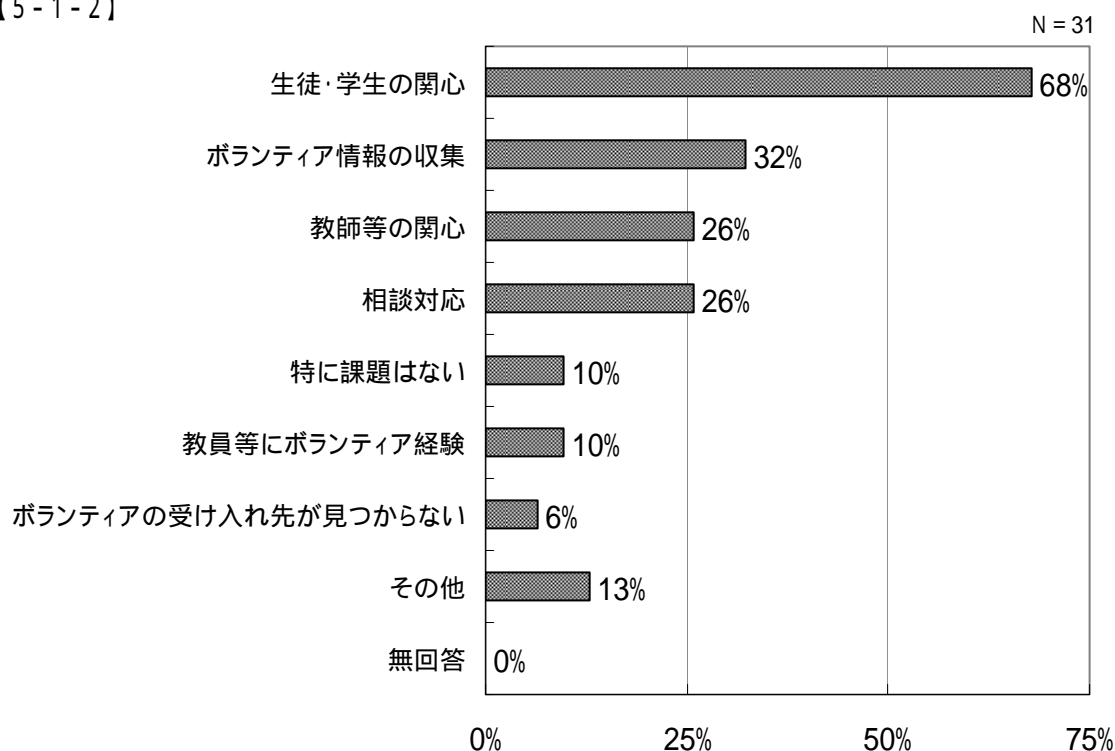
5 - 1 - 1 今後の生徒・学生のボランティア・市民活動に対する支援案

支援案
・ 学生からの問合せには相談にのり、外部機関と連絡が取れるよう仲介役をする。
・ 支援可能なボランティアを選び紹介。
・ 学校教育ボランティアを必要とする学校側のニーズを把握し、学生一人一人の目的や希望に応じられるよう、さらにきめ細かい対応に心がける。
・ 留学生へのボランティア活動 - 留学生を「民間大使」と考え、日本をよく理解してもらうため、正月の初詣や日本の行事に参加してもらう。
・ 個人のボランティア活動は別として、学校としての取り組みは活動の主旨を理解させ、参加者自らのためになるものを選んで参加する。
・ 定期的に施設にボランティア募集用紙を送付し、一括して生徒に情報提供する。
・ 生徒のニーズに合わせ関係機関(川崎市子ども支援、特別支援学校等)と相談し、ボランティア内容を決定し情報提供する。
・ ボランティアの心得を一層指導していく。
・ 生徒の関心への把握、関心を持つ生徒への声かけ。
・ ボランティア情報を収集し、生徒に提供する。ボランティア活動に関する相談には、地域連携グループ所属の教諭が対応し、支援していく。
・ 生徒が行ったボランティアを集約し、単位化していく。

その他
・ ボランティアは本人の自覚による行動が尊いのであり、学校教育の一環として強制したり、評価するものではない。

5 - 1 - 2 生徒・学生のボランティア活動を支援していくうえでの課題

【5-1-2】

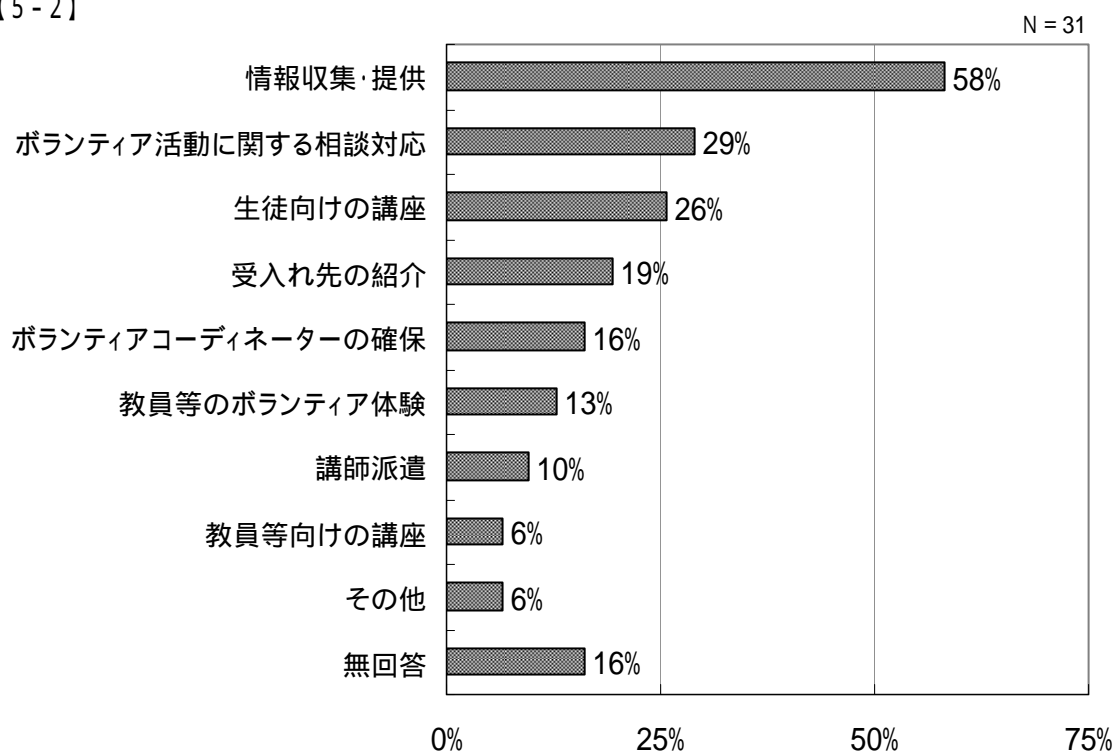


	生徒・学生の関心	ボランティア情報の収集	教師等の関心
回答数	21	10	8
	相談対応	特に課題はない	教員等にボランティア経験
回答数	8	3	3
	ボランティアの受け入れ先が見つからない	その他	無回答
回答数	2	4	0

その他
・授業や課外活動等による学生の時間的制約。
・受け入れ校の担任教師から適切な指示をもらえず、何をしたいのかわからなくて悩んでいる学生がいる。
・交通費が出ないため、自己負担していたり、長い距離を徒歩で通っていたりする学生がいる。
・時間的問題
・安全の確保、活動中の指導の範囲。

5 - 2 課題解決するために必要なこと

【5-2】



	情報収集・提供	ボランティア活動に関する相談対応	生徒向けの講座	受入れ先の紹介	ボランティアコーディネーターの確保
回答数	18	9	8	6	5
	教員等のボランティア体験	講師派遣	教員等向けの講座	その他	無回答
回答数	4	3	2	2	5

・まとめ及び今後の取り組みについて

生徒・学生のボランティア・市民活動について、学校側は「ほぼ把握」し約 9 割の学校が授業や特別活動の時間等で活動の機会を設けています。活動内容は、「学術・文化・芸術・スポーツ」や「保健・医療・福祉」、「環境保全」等さまざまです。このような活動の必要性について、「どちらかという必要である」と「必要である」を合わせると 8 割以上になることから、ボランティア・市民活動に対する支持の高さがみられます。また、今後の生徒・学生に対する支援において、「検討していく」が約 4 割でした。「さらに支援していく」という回答もあり、支援案として「学生からの問合せには相談にのり、外部機関と連絡が取れるよう仲介役をする」といった、学校と推進機関の協力体制の可能性がみえる回答もありました。しかし、支援していくうえで「生徒・学生の関心」の低さや「ボランティア情報の収集」等に課題があることもわかりました。さらに、ボランティア・市民活動を推進している「かわさき市民活動センター」を知っているものの、実際に利用したことはなく、また、川崎市内のその他の推進機関も十分に知られていないという状況がわかりました。

そこで、かわさき市民活動センターでは今後、教師や担当職員等がボランティア情報や推進機関等を知っていることで、生徒・学生からの相談に対応でき、活動への糸口を見出すことができるよう、研修、講座、相談等の案内や講師紹介等の情報を提供し、ボランティア・市民活動への参加のきっかけづくりを促進してまいります。

19川SC市第1-00985号

平成19年11月5日

学校名 差込 様

財団法人 かわさき市民活動センター

理事長 小倉 敬子

高等学校・大学等のボランティア・市民活動実態調査への御協力について（依頼）

時下、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃、当センターの事業に御協力をいただき感謝申し上げます。

このたび当センターでは、川崎市内の高等学校、専門学校、短期大学及び大学において生徒・学生の自発的なボランティア・市民活動に対し、どのような支援を実施しているのか等について調査し、今後の協力体制の可能性を探るため、標記調査を実施することになりました。

つきましては、お忙しいところ恐縮ではございますが、調査への御協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

御回答につきましては、平成19年11月30日（金）までに、郵送またはファックス、電子メールにて御返送いただきたく、重ねてお願い申し上げます。

【お問い合わせ】

財団法人 かわさき市民活動センター

〒212-0007 川崎市幸区河原町1番地

旧河原町小学校付属幼稚園

TEL:044-542-1701 / FAX:044-544-6188

E-Mail: suisin@kawasaki-shiminkatsudo.or.jp

担当：渋谷

平成19年11月

高等学校・大学等のボランティア・市民活動実態調査

財団法人 かわさき市民活動センター
市民活動推進課

- 提出 平成19年11月30日(金)までをお願いいたします。
○ 提出先 かわさき市民活動センター 市民活動推進課
TEL: 044-542-1701 / FAX: 044-544-6188
E-Mail: suisin@kawasaki-shiminkatsudo.or.jp

○下記の項目をご記入下さい(食校名について、公開・非公開をお選び下さい。なお、担当者以降は非公開になります)。

食校名: _____ (公開/非公開)
担当者: _____ (非公開)
電話番号: _____ (非公開)
FAX番号: _____ (非公開)
E-Mail: _____ (非公開)

1. ボランティア・市民活動を推進している機関について

1-1 かわさき市民活動センターを知っていますか。

01.知っている 02.知らない

1-1-1 利用したことはありますか。また、利用したことがある場合は、どのようなことで利用したかについて3つまでお書きください。

01.ある → 1. _____
2. _____
3. _____

02.ない

1-2 かわさき市民活動センター以外で、ボランティアを推進している川崎市内の機関を知っていますか。また、知っている場合は機関名を3つまでお書きください。

01.知っている → 1. _____
2. _____
3. _____

02.知らない

2. 生徒・学生のボランティア・市民活動について

2-1 ボランティア活動を行っている生徒・学生を把握していますか

- 01.ほぼ把握している 02.把握している 03.どちらでもない
04.あまり把握していない 05.把握していない

2-2 授業、特別活動等において生徒・学生がボランティア活動を行う機会がありますか。また、ある場合は活動分野を下記の17項目からお選びください。(複数選択)

- 01.ある → 01.保健・医療・福祉 02.社会教育 03.まちづくり
04.学術・文化・芸術・スポーツ 05.環境保全 06.災害救助
07.地域安全 08.人権・平和 09.国際協力 10.男女共同参画社会
11.子どもの健全育成 12.情報化社会 13.科学技術 14.経済活動
15.職業能力開発・雇用機会拡充 16.消費者保護 17.NPO支援

02.ない

2-2-1 前問(2-2)で「01.ある」とお答えいただいた活動分野について、活動内容を具体的に書きください(主たる活動3件まで)。

事例「1」

.....
.....
.....
.....
.....

事例「2」

.....
.....
.....
.....
.....

事例「3」

.....
.....
.....
.....
.....

3. ボランティア・市民活動が与える影響について

3-1 ボランティア活動を行なうことで、生徒・学生にどのような影響があると思いますか。(複数選択)

- 01.生徒・学生の自発性や社会性が養われる
- 02.他者や社会に関わりをもつことで、豊かな人間性を育む
- 03.一人ひとりを大切にしようとする、心の教育(人権教育)
- 04.その他.....

3-1-1 前問(3-1)でお答えいただいた内容について、なぜそのような影響があると考えますか。具体的にお書きください。

.....
.....
.....
.....
.....

3-2 生徒・学生のボランティア活動の必要性について、どのように考えますか。

- 01.必要である 02.どちらかという必要である 03.どちらでもない
- 04.どちらかという必要でない 05.必要ではない

4. 生徒・学生に対する支援について

4-1 生徒・学生がボランティア活動に関心をもって相談にきたとき、どのような対応を行なっていますか。(複数選択)

- 01.相談に対応できる教員がいる
- 02.相談に対応できる機関が学内にある
- 03.相談に対応できる学外の機関を紹介している
- 04.その他.....

4-1-1 前問(4-1)でお答えいただいた内容について、具体的にお書きください(ここでご記入いただいた内容は、当センターが把握するためのものであり、公開はいたしません)。

01.相談に対応できる教員等

	氏名(ふりがな)	所属	職種
1			
2			
3			

02.紹介している学外機関等

学外機関名	
1	
2	
3	

4-2 現在、実施しているものがあればお選びください。(複数選択)

- 01.情報掲示板の設置 02.資料コーナーの設置 03.情報誌の作成
 04.メーリングリストの作成 05.メールマガジンの発信
 06.学内にボランティアセンターを設置 07.ボランティア担当職員の配置
 08.ボランティア相談 09.ボランティアコーディネート
 10.ミーティング等のスペースを確保(部室含む)
 11.ボランティア関係の講習会等の開催 12.ボランティアに関する授業等の実施
 13.学校の単位として認定 14.ボランティア保険の対応
 15.その他.....

4-3 授業等の一環としてボランティア・市民活動団体と関わりをもったことはありますか。また、関わりをもったことがある場合は、その団体名と関わった内容についてお書きください。
 (Ex.授業の講師をお願いした、授業のノートテイクをお願いした、など)

01.ある →

団体名		関わった内容
1		
2		
3		

02.ない

5. 現在の支援を踏まえた今後の取り組みについて

5-1 生徒・学生のボランティア活動の支援について、今後どのように考えますか。

- 01.さらに支援していく 02.現状のまま支援していく 03.今後支援していく
 04.支援しない 05.検討していく

- 5-1-1 前問(5-1)において支援していこう(「05.検討する」以外)と考えた場合、どのような支援が考えられるか。また、「04.支援しない」とお答えの場合は、その理由をお書きください。

支援案	
1	
2	
3	

支援しない理由	
1	
2	

- 5-1-2 生徒・学生のボランティア活動を支援していくうえで、どのような課題があると考えますか。(複数選択)

01.生徒・学生の関心 02.教師等の関心 03.ボランティア情報の収集
 04.相談対応 05.教員等にボランティア経験
 06.ボランティアの受け入れ先が見つからない 07.特に課題はない
 08.その他 _____

- 5-2 課題解決のため、今後どのようなことが必要と考えますか。(複数選択)

01.情報収集・提供 02.ボランティア活動に関する相談対応 03.講師派遣
 04.受け入れ先の紹介 05.教員等のボランティア体験 06.教員等向けの講座
 07.生徒向けの講座 08.ボランティアコーディネーターの確保
 09.その他 _____

調査項目は以上です。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

調査報告につきましては、ご回答いただいた方宛てに、平成20年1月発行予定の報告書の発送をもって、ご報告させていただきます。また、当センターでは、生徒・学生の自発的なボランティア・市民活動の推進に務めております。

今後とも、よろしくお願いいたします。

財団法人 かわさき市民活動センター

高等学校・大学等のボランティア・市民活動実態調査

報告書

2008年（平成20年）3月31日 発行

発行

財団法人 かわさき市民活動センター

〒212-0007 川崎市幸区河原町1番地

TEL:044-542-1701 / FAX:044-544-6188

URL: <http://kawasaki-shiminkatsudo.or.jp/>